



日時:平成30年11月10日(土) **当日**
場所:阿賀町公民館ほか **49名参加**

開催レポート!

参加者全員でデジタル紙芝居を鑑賞している様子

参加者の主な感想等

- 立川小三郎さんのお話とスライド、感激しました。「母なる川」は大げさでなく実感できました。(東区)
- 中川造船鉄工所では、コーレンボウの話を初めて聞き、中まで見せていただけて良かった。(東区・60代)
- 木崎宿を初めて知りました。また、旧新発田川の舟運など、興味深く聞くことができました。(北区・70代)
- テーマが斬新で良い切り口のツアー。上流から下流までたどり川業を学べて良かった。(秋葉区・60代)
- ツアーに参加して、イザベラ・バードのすべてが興味深く、さらに知りたくなりました。(江南区・50代)
- 弁当は地元の野菜果物や阿賀野川の鮭がうまく取り入れられていたのが良かったです。(東区・60代)
- 病気や裁判ではなく、現地の生のお話が聞けたので、より身近に感じることができました。(江南区・60代)



●旧新発田川・木崎宿跡 ●五十島渡船場跡

▲道中にはゲストガイドがいるスポットがあり、五十島では元船頭の立川小三郎さん、小阿賀野川の造船所では船大工の中川伸一さん、旧新発田川・木崎宿跡では北宝隊の本間修一さんから解説していただきました。

阿賀野市の「3sai(さんさい)」さんが提供する、阿賀野川・松浜の秋鮭をメインにした豪華な粗食弁当「秋のイザベラ・バード」▶

当日は、イザベラ・バードの阿賀行路をたどる中から、阿賀野川の川業についても学ぶため、阿賀野川流域の様々なスポットをめぐるバスツアーを、計2回催行しました。



シリーズ 地域再発見講座
阿賀野川ものがたり

第22回

P.5に掲載した第22回講座の写真は、すべて山口冬人氏(IPS公益社団法人日本写真家協会会員)が撮影したものです。

子どもたちに語りつぎたい!
阿賀流域“ほんもの”の歴史体験プログラム
デジタル紙芝居「阿賀の近代産業ものがたり」の初上演も★



▲当日の現地見学は、草倉銅山本山、鹿瀬ダム、深戸鉄橋など磐越西線スポット、昭和電工(株)鹿瀬工場関連スポットをめぐる、近代産業の光と影の軌跡をたどりました。

◀毎年恒例、阿賀野川・松浜の川鮭をメイン食材とした「農家カフェお茶の間久太郎」さん謹製の豪華な粗食弁当

参加者の主な感想等

- 紙芝居は時代や産業の移り変わりが分かりやすく学べた。絵のタッチが優しい。(阿賀町・中学2年)
- 草倉のような日本の歴史発展の出発点があることを多くの人々に知ってほしい。(阿賀町・30代)
- 鹿瀬工場の成立や変遷に興味深く聞いた。新潟水俣病についても少し詳しくなった。(秋葉区・60代)
- お弁当は見た目も品数も満足です。栗ご飯と松浜の鮭が特においしかった。(北区・50代)
- すばらしい一言。こんなに充実した内容と思わなかった。プラタモリを誘致したらどうか。(西区・50代)
- 歴史の知識が広がりました。光と影の遺産をたどる中で、新たな視点から考える事ができました。(西区)
- 非常に素晴らしいプロジェクト。公害だけでなく広い視野で地域を学べるのは有意義。(東区・60代)



シリーズ 地域再発見講座
阿賀野川ものがたり

第21回

P.4に掲載した第21回講座の写真は、すべて片桐淳氏が撮影したものです。

阿賀野川の上流から下流をめぐる旅
イザベラ・バードがたどった阿賀流域行路から学ぶ阿賀野川の川業
～川砂利採取・川舟業・筏流し・船頭・漁業の光と影～

小阿賀野川にある中川造船鉄工所では、全国でも阿賀野川・信濃川にしかない珍しい巨大川舟である「鉄製コーレンボウ」(※砂利運搬船)に試乗させていただきました。



特集
2

開催レポート!

日時:平成30年11月4日(日) **当日**
場所:阿賀野川流域各スポット **28名参加**

日時:平成30年11月11日(日) **当日**
場所:阿賀野川流域各スポット **28名参加**



平成30年度ユネスコ活動費補助金(文部科学省所管)
阿賀町役場鹿瀬支所
阿賀町教育委員会
〔一社〕あがのかわ環境学会
日本自然環境専門学校
昭和電工株式会社

紙芝居教材が完成!



▲紙芝居教材を検証したモデル授業の様子(写真左下:片桐淳氏撮影)

小・中学校で授業も展開
阿賀流域の近代産業が織りなした光と影の歴史を、地元の小・中学生にも学んでもらおうと、今年度作成を進めてきた紙芝居教材「阿賀の近代産業ものがたり」が、ようやく完成しました! 11月には阿賀町内の小学校7校7クラス・中学校1校2クラスの生徒の皆さんへ、紙芝居教材を使った検証授業を展開し、実際に草倉銅山や鹿瀬ダム、昭和電工(株)鹿瀬工場の周辺などに見学しました。
現在は、阿賀黎明高校の生徒さんに紙芝居の英訳を担当していただくなど、阿賀町の歴史学習が加速しています。



▲「子ども未来フォーラム」ではワークショップの運営・指導を黎明学舎が担当

黎明学舎を利用した卒業生の声

- “塾”みたいなカタい雰囲気じゃなく、自分のスタイルで学習を進められた。
- 勉強方法の見直しをアドバイスしてもらったことが、とても大きかったです。
- スタッフが話しかけやすく、色々聞いてくれて、すぐに受け入れることができた。
- スタッフの期待やサポートのおかげで、勉強を頑張ることができました。



▲普段の塾の教室の様子

地域とともに学んでいくために
近年の大学では推薦・AO入試枠が増加し、今後も拡大傾向にあります。こうした背景もあって、知識偏重ではなく生徒自らが地域などに関わって実践していくタイプの課題解決型学習が求められるようになる中、阿賀黎明高校では阿賀町の過去・現在・未来を探る教科「地域学」を新たにスタートさせました。
黎明学舎も中学生へのキャリア教育や12月に開催された「阿賀町子ども未来フォーラム」の運営に重要な役割を担うなど、阿賀町教育環境づくりにますますすくなく存在になりつつあります。

【お問合せ先】

- 阿賀町教育委員会: TEL0254-92-2561 ● 阿賀黎明高等学校: TEL0254-92-2650
- 阿賀町公営塾黎明学舎: TEL0254-92-7724 (※HPは「黎明学舎」で検索)

阿賀の宝もん★発掘レポート

阿賀野川の歴史や文化、人や暮らし、自然環境…などを流域の未来に生かす取組を、毎月掲載。

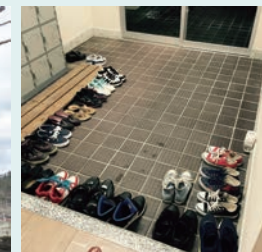


阿賀町公営塾 vol.4
黎明学舎

高校魅力化プロジェクトとは?



普段の塾の教室の様子



▲放課後に多くの生徒が来る
▲黎明学舎の校舎

P.6~7の「黎明学舎」に関する記事中の写真はすべて、阿賀町公営塾黎明学舎が提供。「黎明学舎」のロゴは、阿賀黎明高校の生徒が作成。

学校の統廃合が進む阿賀流域

この阿賀流域でも少子高齢化の影響から、学校の統廃合が次々と進んでいます。とりわけ過疎・高齢化が著しい阿賀町は、子どもの数が年々少なくなる中、小・中学校の再編が進められています。

そうした中、阿賀町内でただ一つの「県立阿賀黎明高等学校」も、生徒数が低迷して存続が危ぶまれるようになっています。

「いよいよ高校もなくなれば、この町からますます若い世代がいなくなってしまう……」

こうした危機感を抱く阿賀町が、阿賀黎明高校と連携して導入した試み——それが「高校魅力化プロジェクト」でした。

町が運営する「塾」という試み

このプロジェクトはもともと、統廃合寸前だった島根県立隠岐島前高校を魅力化する取組として始まり、このモデルを教育コンサルティング会社の(株)Prima Penguin(プリマペンギン)が全国展開して、離島や中山間地域の高校を中心に広まりつつあります。阿賀町は新潟県内では初めて、平成28年度から参画しました。

「高校魅力化プロジェクト」の中核

は何と言っても、地域おこし協力隊制度を活用して自治体が運営する「公営塾」を、高校に併設できる点です。予備校や塾がない離島や中山間地域に暮らす高校生たちにとっては、大変頼もしい味方になります。

この公営塾が阿賀町では「黎明学舎」としてスタートし、現在は都市部から移住してきた4名の若いスタッフが生徒たちのお兄さん・お姉さんの存在として活躍しています。

キャリア教育に力を入れる理由

黎明学舎では予備校のような高校生向け学習塾としての一面を持ちつつ、生徒たちが勉強する習慣を身につけ学習の意欲も上がるように、自分のスタイルで自習を進められ



▲(写真上)阿賀黎明高校 / (写真下)学校近くの麒麟山と常浪川



▲卒業生・大学生との交流



▲キャリア教育授業の様子



◀(左から)スタッフの丹羽貴一さん、中野裕佳さん、川田さん、松本光平さん